

天天中文シリーズ講座：中国語でキャリアアップ！

「中国語でキャリアアップ！」は中国でキャリアを発展させる各界の方々に、仕事の現場や中国語学習法についてお話を伺う「天天中文」のシリーズ講座。中国の各界で活躍する皆さんに、仕事や生活のリアル体験をお伺いします！

第9回（2022年5月27日）ゲスト：

焦媛媛先生・・・1994年生まれ、北京出身。天天中文講師。現在、新潟大学大学院生として都市デザインを研究中。

雷麗利先生・・・1996年生まれ、河南省洛陽出身。中国の名門大学、鄭州大学の看護学科を卒業し日本で看護師を勤め、その後、帰国し、天天中文講師となる。

JEIS：今日はお二人の先生方、「天天中文」の仕事でも忙しいのにありがとうございます。
焦さんは日本の新潟大学にオンライン留学中、雷さんは、大学で専門的に勉強したあと、日本で看護師として働いていた経験をお持ちですね。日本通のお二人に、日本と中国の違いについて感じたことをいろいろ教えていただこうと思っています。それでは、まずお二人に同じ質問をするのですが、どうしてお二人は、進学先や就職先として日本を選んだのか、その理由を教えてください。

焦：まず自己紹介をさせていただきます。現在、新潟大学で建築学を勉強しています。いまは日本に行けないので北京でオンライン授業を受けています。私が新潟大学を選んだ理由は、研究室の先生の研究領域が私に近いのと、研究室のみなさんがとてもやさしかったからです。私の勉強している建築学をもうすこし具体的にいうと、「都市デザイン」の専攻になります。日本の都市デザインは中国よりも詳細に法整備がされています。中国はまだ発展中なので、法整備についてまだ弱い面があります。日本でその先進的な領域を学びたいと思いました。今日はよろしくお願いいたします。

JEIS：焦さんは、そもそも日本語学科だったのですか？

焦：いえ、私のもともとの専攻は展覧会のデザイン、でした。

JEIS：では日本との接点はあったのですか？

焦：私は日本のアニメと小説がとても好きだったので。日本に留学したいと思いました。

JEIS:それがきっかけなのですね！では雷さんは、どうしてわざわざ日本を就職先を選んだのですか？

雷:では、まず自己紹介をします。私は大学に入学する前は日本に関しては全然知らなくて、国外に行くなんて想像もしていなかったです。大学に入ってから日本語を勉強するようになって、面白くなりました。そこでその大学と日本との交流プログラムがあって、それで日本に行くことになりました。大学と連携している病院がいろいろあって、東京にも大阪にもありました。そのなかで友達と一緒に働きたくて、友達に「大阪がいいよ」といわれて大阪へ行きました。実際に大阪に行って、1回だけ東京に行ったのですが、大阪は東京とは全然違う雰囲気がありますね。大阪のほうが生きやすい、生活しやすいと思います。大阪には友達もいますし、大阪の人たちはとても親切にしてくれて、とても楽しかったです。今は帰国しましたが、今後、新型コロナが落ち着いたらまた行きたいと思っています。将来には医療通訳も目指したいと思っています。

JEIS:医療通訳はAIではまだまだ代替できないでしょうし、可能性がありそうですね。焦さんは、日本で先進的な都市計画を学んで、やがては中国でそれを生かしたいとお考えなのでしょうか？

焦:はい、そうです。日本の都市計画の法律はとても健全だと思います。例えば日本では市町村の規模の小さい自治体でも、景観に関する法律があります。逆に中国は、小さな自治体では自らの法律がありません。

JEIS: そうなのですね。ではお二人の日本通に、日本について質問です。まず一つめ、日本料理で一番好きなものは何ですか？

雷: いっぱいあります。日本のてんぷら。それと日本のデパートにはいっぱい食品も売られていますね。たくさん食べました。仕事するときは忙しいのんで、休日などにゆっくり行っていました。新型コロナの流行期間に日本にいたので、いろいろ旅行できなかったのは残念でしたが。

JEIS: それでは第二問、日本でいちばん驚いたことは何ですか？ 良かったことでも、悪かったことでも。

霊: 良かったのは買い物です。私は心斎橋に近いところに住んでいて、毎週のように友達に会ったりするために出かけていたのですが、すごく楽しかったです。仕事でもまわりは

みんな年上の先輩たちで、すごく優しくいろいろ教えてもらいました。日本の病院と中国の病院は全然違っていて、中国の病院はとにかく患者が沢山いて、病院に到着したあと、受診してもらうまで、あれこれ迷いながら手続きをしないといけなくて大変です。患者さんも大変ですし、お医者さんも看護師さんも仕事の量がすごいです。今は以前よりは少し体制が改善され、休日もしっかりとれるようになっていて、それは良かったと思いますが。私自身も中国の病院で受診したことはありますが、いい病院に行くときは朝6時くらいに並んで順番待ちをしなくてはなりませんでした。

JEIS: 焦さんは、いまオンラインで授業を受けているんですよね？先生方は日本の方ですか？大学院の仲間も日本人だけですか？

焦: はい、先生は日本人ですが、大学の仲間には、日本人も中国人もいます。他の国の人はいないと思います。オンライン授業ばかりですが、対面授業よりもよいと思います。対面授業だとテストがありますが、オンライン授業だとレポート提出が主なので。いま大学院の1年生なので、まだ時間があるので、今年の9月には日本に行きたいと思っています。

JEIS: 日本にいったらまず何をしたいですか？

焦: 日本にいる友達に会いたいと思っています。

JEIS: 日本の文化でいちばん興味があるのはどんなことでしょうか？

焦: 実はいちばん興味があるのは茶道です。茶道の授業も半年、受けました。私にとっては正座がほんとうにきつかったです。

JEIS: オンラインだと正座しなくても分からないのではないですか（笑）？

焦: ええ、でも。茶道はいろいろな特色あるお茶碗がありますし、京都の先生も本当に優しくて、茶道が好きになりました。

雷: 私は、テレビが面白くて。日本と中国のテレビは全然違います。日本では歌舞伎の役者さんたちがテレビにも出ていて、それが日本っぽい雰囲気があって面白くて。歌舞伎はみたことがないですが、今度、機会があればぜひ見てみたいです。中国の      という動画配信サイトでは日本の歌舞伎を見て、いいなと思いました。ぜひ現場の劇場でみてみたいです。

焦：私は一度、歌舞伎を見たことがあります。色彩など、ほんとうに素晴らしいと思います。

JEIS：それではお二人、パンデミックの最中ではありますが、いまの中国ではまっていることは何でしょうか？

焦：私はズンバに夢中です。もとはブラジルの伝統的なダンスですが、いまは世界中で人気です。最初は痩せるために習い始めましたが、どんどん好きになりました。

雷：私はいまは中国の大学院への試験の準備をしています。新型コロナの影響下にありますが、とても落ち着いて勉強することができています。大学院では日本に関するテーマで研究しようと思っています。

JEIS：お二人とも活躍していて素晴らしいですね！

会員：日本人と中国人は外見からみると似ていますよね。だけど実際につきあってみると外国人なので全然違って、似ているのに違うのでショックを受けるのですが、中国の人もそれは同じなのでしょうか？

雷：私からみると、中国人と日本人は髪形で分かると思います。中国人は髪がパサパサしていて、日本人だと髪がきちんと手入れされていて、男性も女性も整髪料などをちゃんとつけていますよね。

焦：日本人の特徴は、メイクをきちんとしていて素顔の人はいないと思います。そして笑顔が違うように思います。日本人のほうが笑顔の口の開き方が大きいと思います。

JEIS：性格の違いなどを挙げられるかと思ったら、髪形とか、笑顔の口の開き方とか、お二人の観察眼はユニークですね。

会員：お二人はどのように日本語を勉強されたのでしょうか？先生方の授業はいつも中国語だけなので、こんな日本語が上手だとは知りませんでした。

雷：日本にいったばかりの時はぜんぜん話せませんでした。コンビニにいて、レジの人と話をしようとしても通じなくて、シャンプーを買おうとしてコンディショナーを買ってしまったこともありました。でも、それから一生懸命に言葉を覚えるようにして、私はアニメやテレビドラマを見るのが好きなので、見て、「頑張ってください！」など、短いセリ

フを書いて覚えていったこともあります。「半沢直樹」では「倍返し」「やられたらやり返す」という言葉を覚えたりして（笑）、面白いところを覚えるのは楽しかったです。今は毎日、日本のニュースを読んで、知らない言葉について勉強しています。毎日繰り返したら、最後には結果がでるかなあ、と。

焦：私は大学三年生から日本語の勉強を始めました。それ以前は私の両親はずっと英語が大事で、ほかの言葉を勉強すると英語の成績が下がる、と私に言っていたのですが、大学三年生の時に私は英語の試験で最高の結果をとりました。そのあと、日本語の勉強を始めたのです。そして、2018年に京都にいきました。そして京都の2年間で日本語の試験を受けたのですが、なかなかレベルがあがらない。そこで日本の本を読むようにしました。日本人の考え方や表現について、分からない言葉があればすぐ調べ、覚えるようにしました。15冊の本をすべて読み終わったあと、日本語のレベルがすごくあがりました。

JEIS:多読を徹底的にやられたのですね。素晴らしいですね！

この後、ブレイクルームに分かれ、日本の生活や中国について、交流が続きました。

